

会 議 録

会 議 名		令和 3 年度 第 4 回 川西市社会教育委員の会(レフネック部会)	
事務局		教育推進部 社会教育課 (内線 3424)	
開催日時		令和 3 年 11 月 19 日(金)10 時~11 時 15 分	
開催場所		川西市役所 4 階 庁議室	
出席者	委 員	常行副議長、倉橋委員、樋口委員、上田委員	
	そ の 他		
	事 務 局	藪内教育推進部副部長(社会教育・図書館・公民館担当)、村山社会教育課長、木田副主幹、海野	
傍聴の可否		可	傍聴者数
		2 名	
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会 議 次 第		別紙のとおり	
会 議 結 果		別紙のとおり	

審議経過

1. 開会

2. 報告事項

(1) 事業再検証の進捗状況について 資料1 資料2

事務局より、資料1、資料2に基づき報告がなされた。

事業再検証において、行財政改革審議委員と質疑応答やディスカッションを重ねてきた。

その検証評価（答申）への市の見直し方針案は次のとおりであり、ホームページでも公開している。

- 生涯学習短期大学と高齢者大学の2事業をゼロベースで見直し、新たな生涯学習の仕組みを再構築する。
- 現役世代や青少年等も参加しやすい開催方法や講座内容、他部局等との連携を検討する。
- 10月、厚生文教常任委員協議会で市議会からの質問やご意見、また、11月17日までパブリックコメントで市民からの意見を受け付けた。現在、回答を取りまとめ中。
- 今後のレフネックのあり方については、社会教育委員の会でも議論を重ねてきたが、大きく見直す時期に来ており、より良い内容となるようご審議賜りたい。

これらの報告について、委員から種々意見が述べられた。

- 事業再検証の趣旨は事業の効率化。高齢者が増え続ける中で、市民の方が頭と身体いずれも健康で長生きすることは市の発展とSDGsにつながる。
- 社会教育の到達点は、市民に地域で楽しく生きていただくことと思う。市民人材育成講座の具体例として、阪神シニアカレッジ「阪神ひと・まち創造講座」からノウハウを取り入れてほしい。
- 事業内容をゼロベースで見直すこと、よりよい社会教育を目指すという考えに基本的に賛成する。私がかねてより、レフネック、りんどう学園について違いがわかりづらいと感じていた。地域課題解決と活躍する人材育成に特化するのとは、とてもわかりやすい目標設定だ。具体的内容について、これから議論を重ねて進めていただきたい。
- 青少年と現役世代へ受講世代を広げようという考えだが、高齢者も対象としていければと思う。ターゲットを広げること、事業内容と受講対象者の年代の議論はこれからも必要だ。
- 事業計画は前向きに。今、地域にお住いの若い世代と高齢者を対象として社会教育の基盤の上に立つ生涯学習というものをブレないように考えていきたい。市民のために、また、それ以外の方のためにも建設的な議論を続けて行って、相対的に「この線で良いのでは」と言えるものを生み出せたらと考える。

3. 議題

(1) 令和4年度のレフネックの進め方について 資料3

事務局より、資料3に続き説明がなされた。

見直し方針案のとおり、令和5年度から、新しい生涯学習の仕組みをスタートさせるのであれ

ば、現行のレフネックは令和4年度で終了となる。その場合の令和4年度のレフネックの進め方として、

【案1】令和4年度は2年次2学科（こころの未来学科、エネルギー変換工学科）、1年次1学科（宇宙・生命学科）を実施する。

- 2年次である「エネルギー変換工学科」及び「こころの未来学科」については、2年間の学習を修了していただくために実施する。
- 1年次である「日本史学科」はご依頼していた大学からお断りがあったため、実施をしない。
- 1年次である「宇宙・生命学科」は2年間の学習期間で募集をし、受講生も確定している。しかし、令和5年度から新しい生涯学習の仕組みが始まるため、学習期間は1年のみとなる。

【案2】令和4年度は2年次2学科のみを実施する。

- 2年次である「エネルギー変換工学科」及び「こころの未来学科」については、2年間の学習を修了していただくために実施する。
- 1年次である「日本史学科」はご依頼していた大学からお断りがあったため、実施をしない。
- 1年次である「宇宙・生命学科」は2年間の学習期間で募集をし、受講生も確定している。しかし、令和5年度から新しい生涯学習の仕組みが始まるため、学習期間は1年のみとなる。募集要項に記載していた学習期間と異なってしまうため、実施しない。

これらの説明について、委員から種々意見が述べられた。

- 当初2年間で予定していた宇宙・生命学科が中途半端なものにならないように講師と一緒に1年間のプログラムを検討するように。
- 宇宙・生命学科を中止するのはどうか。受講確定者72名のニーズに応じてほしい。
- 宇宙・生命学科を中止してしまうと信頼を失う。募集当初に示された1年次20回のプログラムに何時間か増やして1年間で納める話を講師陣とすればと思う。中止の選択はない。
- 宇宙・生命学科は1年間であってもやるべきだ。レフネックは問題点をいくつか指摘されているが、市民からは非常に期待されているのも事実だ。日本史学科は先方から断ってこられて実施できなくなったが、宇宙・生命学科は、本来あるべき2年間のカリキュラムではなくなるとしても、依頼先の大学と話し合う余地はある。レフネックは最後まで継続していると痕跡を残すことは今後のためにも大事と思う。令和4年度はエネルギー変換工学科2年次、こころの未来学科2年次、宇宙・生命学科をお願いしたい。

(2) 令和5年度以降のレフネックについて 資料4

事務局より、資料4に基づき、説明がなされた。

- 生涯学習の2事業（りんどう、レフネック）をゼロベースで見直し、新たな生涯学習の仕組みを再構築するにあたって、①各事業の強みは活かす。りんどう学園の自主運営の部分、レフネックの大学とのつながりを活かす。②幅広い年代層へのアプローチを図る。青少年からシニア、親子で参加するコースなどを設定する。③地域で活動する人材の発掘、育成、学習後の

活動につながるコースを設定する。④子どもたちが地域の歴史や自然、興味ある分野を深く知る機会となるコースを設定する。

- 案として、青少年コース、シニアコース、市民人材育成コース・地域の課題解決コース、ブラッシュアップコース・マスターコース

これらの報告について、委員から種々意見が述べられた。

- オンライン学習の問題点は「仲間づくり」ができないこと。集まって楽しく仲間づくりを目標として、オンラインの使用は限定的にすべき。
- 「ブラッシュアップコース、マスターコース」は難しいと思う。
- 「青少年コース」は親子で考えられる自然、地域の歴史などのテーマが面白い。
- 「青少年コース」では、テーマ設定が重要。学校教育ではできないが社会教育として受け持てるテーマの参考として、県立人と自然の博物館2019年度プログラムを参考にしてほしい。「子どもたちに古生物学を教えたい」若手専門家とキャンプ・サバイバル面の講師協力を得て丹波市の恐竜発掘現場で開催されたものだ。恐竜発掘は一定の子どもたちに人気のあるプログラムだが、学校現場では扱いにくい。ここまでのものは難しいかと思うが、類するテーマ設定、協力講師などの参考になるかと思う。
- 「シニアコース」は従来のレフネックの良さを加味して大学の先生などの人選を事務局で担当するのが良い。
- 「市民人材育成コース」は、学校現場ではできない部分を支える市民を育成してほしい。例えば、自然分野や環境体験学習の支援をしてもらって市民人材育成をできればと思う。
- 「ブラッシュアップコース、マスターコース」は「市民人材育成コース」を修了された方の交流の場として、情報共有の場としてOB会の位置づけで考えられてはどうか。基本は、「青少年コース」「シニアコース」「市民人材育成コース」の3本でよいと思う。
- 「シニアコース」では、りんどう学園の名称を使うと現状がそのままかと感じられる。フレイル予防は保健福祉の要素が強いし、市として他の所管課が実施しておられる。福祉と統合しないのであれば、こちらは社会教育の理念でもって進めてはと思う。レフネックの良いところをプラスしながら、りんどう学園の良いところを残しつつ、膨れ上がらないように考える。
- 大学の先生だから講義上手とは限らない。市民の方に楽しんで学んでもらうために講師の発掘と育成も必要。
- 川西市の「まちづくり市民講座」利用案内を見ると市の職員はそれぞれが専門家で、良い資源を持っている。各課の協力をいただくことも検討できるかと思う。
- 私は世帯数の多いマンションに住んでいるが、結構子どもがいる。ロビーには本がたくさん置いてあって学校帰りの子ども達がよく見ている。また、その横で子どもたちが予習復習をしているのを住民は好意をもって見守っている。「青少年育成コース」は子ども達が地域の中で興味を持つ講座事業として発展させてほしい。
- 令和5年度以降のレフネックについて今後も議論を続けて、共に良いものを作りあげたい。

審議協議の結果、

次回会議までにさらにアイデアや要望があれば、事務局へ届け出ることとなった。

4. その他

(1) 次回の社会教育委員の会の開催について

事務局から、次回、第5回社会教育委員の会（レフネック部会）は令和3年12月17日（金）10：00から開催するとの連絡がありこれを了承した。

5. 閉会